

「雑草魂」 第 3 2 号

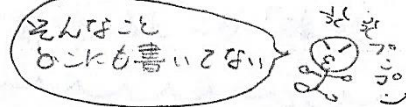
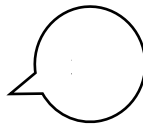
2020.12.1(火) 編集責任者：橋山 直記

公立高校入試は



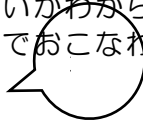
先生は高校入試の問題を作った経験があるわけではないので、これは推測であることをまず述べておく！ズバリ！高校入試の問題はみんなの使っている教科書を中心に作られているはずであ〜る。その理由はかんたん。

教科書にのってない問題が出たら、と大問題になるからである。



公立高校の入試問題は、その都道府県に住む中学生が全員一度は必ず学習したことを問題にしなければならない。でないと平等でなくなるからだ！また、本屋さんで売っている参考書や問題集にのっていても、教科書にのってない内容もダメである。超マニアックな内容を出されたら、受験生は何を勉強していいかわからなくなってしまう。

そこで問題作成は、次のような感じでおこなわれているだろうと予想してみる。



その 1. すべての教科書をチェックする。

教科書といってもいろんな会社がつくっている。英語だとホライズンとかサンシャインとかあったりする。例えばホライズンにのってることがサンシャインには書かれてなかったとしよう。するとホライズンで学習した人が有利となる。だから全部の教科書に共通して書かれていることが入試問題となるはずである。

その 2. 過去の問題をチェックする。

去年はヨーロッパを出しているから今年アジアかな

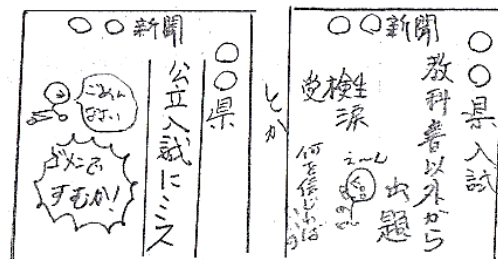
教科書の内容をここまで応用していいんだな

この問題は毎年似た感じで出てるぞ！

と、研究するはずである。1年前とほとんど同じ問題とならないのである。

その 3. 多くの人からのチェックをうける。

入試問題は1人の先生でつくるというわけではない。数人の先生がものすごい時間とエネルギーを費やしてつくるはず。そしてたくさんの人にチェックをうけるはず。



でないと、このような新聞記事となり大問題となるからである。

【結論】

だから、教科書はとっても大切なのである。どんな参考書よりも問題集よりも大切なのが教科書である。しかもその教科書をただ（教科書無償）でもらっているのだから、もっと利用すべきである。ただし、教科書からそっくりそのまま出題されるわけではない。教科書を理解すればできる応用問題も当然あることは知っていてね！！